

公益社団法人

平成25年度 第2回CCC政治学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日 時：平成26年2月19日（木）17：00～19：40
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：平野委員 川島委員 昇委員 名取委員（18：30までpc参加）
（事務局）井端事務局長 森下 松本

IV. 資料

- 資料① 政治学教育における教育改善モデルへのアンケート結果
- 参考1 私立大学等改革総合支援事業 配点区分表
- 参考2 ムーク（MOOC）と反転授業がもたらす学びの変革
- 参考3 政治学分野の展望—グローバル化時代の市民社会を創造する政治学—
平成22年4月5日日本学術会議政治委員会政治学展望分科会

V. 議事内容

- 1. 政治学の入門編（法学におけるリーガルマインドに相当するようなもの）をどのように設定するか、について

法学部、政治学部でない学生等については「知の時代を切り拓く教育とICT活用」（政治学分野）の目標設定、講義手法等をそのまま使うことは講義時間等の関係で無理。

総合学部、理系等の学生については「政治学の入門編」の位置づけが必要。

政治学の入門編は目標を設定するというよりは、政治学へのイントロダクションとして位置付ければいいのか。

理系だろうと20歳になれば投票権をもつので、よき市民となる教養教育として政治学の入門編が必要。

日本の小中高では政治制度は教えても、価値観を伴う意見の表出は抑制しがち。大学では後者にふれることが大事。

政治学では1) じぶんの意見を表出することと、2) 多様な意見を統合し、集団的決定するという双方の面が大事。2)の面では他人の意見をよくきいて自分の意見を変えていくというのも大事。

日本でのICTの導入は1)の面では大きく貢献しているが、2)の面はまだまだ。むしろ2)は後退しているかもしれない。

- 2. 次年度以降の展開をどうするか、について

- 1) これまでの成果冊子は、4年間毎年政治学を学ぶ学生への到達目標を検討してきたが、教養課程等で1年あるいは半年だけ政治学を学ぶ学生もいるから、そうした学生についての到達目標等についての検討も必要ではないか。

- 2) PBL(Project Based Learning, Problem Based Learning)という手法について

具体例を例示することで、各大学の教員の講義、ゼミ等にとりこんでもらうようにすべきだろう。

高校までは正解が1つだけある、という前提で授業等がおこなわれてきたが、大学ではとくに、社会科学の政治学では、必ずしも正解が1つだけある、というものではないことを理解させることが大切。

ごみ焼却場、し尿処理場などをどこにつくるか、反対意見をふまえつつも、よりましな解をもとめるという大人の感覚が大切。

その意味で政治学は大人の学問、成熟の学問という側面をもつ。

ICTの普及に伴い、意見の表出は目立つように「なっているが、他の意見を受け入れて意見の統合をはかる」という面はまだまだ。

5. 次回の委員会

日時：平成26年6月6日（水）17：00～19：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室